



単元を貫く言語活動の実践 ～読むことの指導について～

大館市立桂城小学校 教諭 中井 みどり
教諭 山本 慎子
教諭 金 圭子

1 はじめに

「単元を貫く言語活動」を位置付けた指導は、従来のような単元構成では行うことができない。新しい学力観に基づく、新しい指導法には、新しい単元が必要である。本校では、現行指導要領の趣旨に基づいて、次のように単元づくりを行い、確かな読みの力の定着を目指した。

2 「単元を貫く言語活動」を位置付けた指導の実践

(1) 重点指導内容の設定

はじめに、年間指導計画や児童の実態などから、単元の重点指導内容を決定する。これが決まらなないと、単元を貫く言語活動も適切に設定することができない。

(2) 重点指導内容に最適な言語活動の設定

次に、言語活動の特性と教材の特性などを考え合わせて、児童が自発的に学習できるような言語活動を設定する。

(3) 指導過程づくり

① 第一次の指導

- ◇学習意欲をもたせる。
- ◇必要感のある言語活動（学習課題）を設定し、学習の見通しをもたせる。

【教師の支援・配慮事項】

- ・教師による関連図書の読み聞かせやペープサート劇の演示
- ・教師自作のパンフレット、新聞、感想文、意見文等の提示など

※ゴールとなる言語活動を演示・提示する。

② 第二次の指導

- ◇教科書教材を使って、言語活動を指導する。第三次において、自力で言語活動ができるような指導（学び方）、支援を行う
- ◇どの時間も一貫して、単元を貫く言語活動に関わる学習を行う。学習内容を精選し、無目的で詳細な場面読みで終わらないようにする。

<実践例 1>

- 【学年】 2年生
- 【重点指導内容】 読むこと(ウ)
- 【言語活動】 ペープサート劇
- 【主教材】 「スイミー」
- 【並行読書】 レオ＝レオニの作品

<実践例 2>

- 【学年】 6年生
- 【重点指導内容】 読むこと(エ)
- 【言語活動】 帯やポスターで本を紹介し合う
- 【主教材】 「やまなし」
「イーハトーヴの夢」
- 【並行読書】 宮沢賢治の作品

【教師の支援・配慮事項】

- ①学び方のマニュアルの用意
 - ・要点、要旨のまとめ方 ・あらすじのまとめ方 ・音読劇の進め方
 - ・ペープサート劇の進め方 ・感想文の書き方 ・報告文の書き方など
- ②参考作品等の展示・掲示
 - ・教師作成の見本 ・児童作品など

③第三次の指導

◇児童が自分の好きな場面や読みたい文章を選び、第二次の学習を活かして自力で言語活動を行えるようにする。(活用を図る学習)

【教師の支援・配慮事項】

- ①児童同士での学び合いの工夫
 - ・個の学習とペア・グループでの学習場面を意図的に設定する。
- ②既習学習（学び方のマニュアルを含む）の明示
 - ※児童が困ったときに、フィードバックできるようにする。
- ③学習の進捗状況と個別のサポート

<実践例 3>

せんそうのころのお話を読んで、感想を発表し合おう	
言語活動	物語を読んで、感想を発表する（3年生）
指導事項	◎感想を発表し合うという目的をもって、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりすることができる。 <small><読むことエ></small> ○戦争を背景にした物語を読んで考えたことを発表し合い、感じ方に違いのあることに気付くことができる。 <small><読むことオ></small>

第二次(5時間) 「ちいちゃんのかげおくり」で学ぶ

学習活動	指導のポイント
①「ちいちゃんのかげおくり」の、戦争に関する言葉の意味や新出語句の意味を調べながら読む。	
②人物の様子や周囲の状況の変化に着目して読み、粗筋をまとめる。	・はじめ・中・終わりの様子を大きくとらえ、まとめさせる。
③感想文例を見て、感想をまとめるポイントを確認し、感想を書く。	・付けたい力（引用・要約等）に関連した感想例を用意し、児童が自分で気付けるようにする。
④感想を発表し合い、交流する。	・それぞれの感想のよいところを教師からも紹介し、第三次に生かす。

第一次(1時間)

学習活動	指導のポイント
①戦争について知っていることを発表し合う。	
②「凧になったお母さん」の読み聞かせを聞いて、感想を話し合う。	・戦争時代を補足しながら教師が読み聞かせをし、戦争童話に関心をもてるようにする。
③単元のめあてをもつ。「戦争のころのお話を読んで、感想を発表し合おう」	・戦争を背景とした童話を用意し、ブックリストを作っておく。
④感想発表会に必要な学習の計画を立てる。 ・並行読書をする。	

第三次(5時間) 自分が選んだ戦争童話で学ぶ

学習活動	指導のポイント
①難しい言葉の意味を調べながら自分が感想発表をするお話を読む。	・同じ戦争童話に興味をもった児童同士で3人グループを作り、交流しながら活動させる。
②人物の様子や周囲の状況の変化に着目して読み、粗筋をまとめる。	・疑問点や心に残った場面、文などを付箋に書いたり、話し合ったりしながら読ませる。
③引用や要約を取り入れながら、自分が選んだ本について感想をまとめる。	・第二次の学習の足跡を明示しておき、「ちいちゃんのかげおくり」での学習を活かして感想をまとめさせる。
④感想を発表し合い、交流する。	

3 終わりに

新しい国語科の指導では、教科書教材を読む時間は従来よりも大変少なくなる。表現の細部に触れることができなくなり教師は不安になるが、単元を通して、児童は、たくさんの図書教材

(良書)に触れ、自らねらいを達成していく姿を見ることができる。最適な言語活動の設定や一単位時間の展開の仕方など、課題もあるが、今後も研究・実践に努めていきたい。